

(5)富来田地区

① 地区特性

- 東西の山地に囲まれて、小櫃川に面して低地が広がっています。
- 都市計画マスタープランでは、JR 馬来田駅周辺において地域中心拠点に位置づけられ、都市再生拠点を補完する身近な生活サービスなどの機能を集積し、日常生活の拠り所となる拠点形成を目指しています。
- 市街化区域では、住宅を中心とした市街地が作られており、学校が立地しています。一方で、市街化調整区域では、小規模な集落が広く分布しています。
- 地区全体で、低層建物が広く分布しています。

② 災害リスク分析

ア. 推定被害規模と対応避難所等

	津波 浸水	高潮 浸水	河川 浸水	ため池 浸水	土砂 災害	大規模 盛土 造成地
想定災害	—	—	●	●	●	●
推定被災人口	—	—	2,481 人	163 人	1,075 人	21 人
推定被災世帯※	—	—	1,176 世帯	77 世帯	509 世帯	10 世帯
対応避難所等	6 カ所	6 カ所	3 カ所	—	6 カ所	1 カ所

※推定被災人口から、1世帯あたり人員（2.11人／世帯：令和4年4月時点）を除算して算出
 ※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

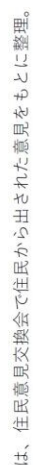
イ. 災害リスク

災害想定	災害リスク
台風	●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。
地震	●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。
河川浸水	●小櫃川が氾濫した場合、河川沿い概ね1km圏内に被害の恐れがある。 ●3階建て以上の建物が少なく、垂直避難が困難である。 ●小櫃川沿岸での河岸浸食と氾濫流の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。
ため池浸水	●田川貯水池下・田川貯水池上の2つのため池があり、氾濫すると歩行可能程度の深さの水が一部の宅地内に流れ込む恐れがある。
土砂災害	●大雨や地震時に、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域内の建物や住民が被災する恐れがある。
大規模盛土造成地	●調査により危険度が高いと判断された大規模盛土造成地では、地震時に滑動崩落の可能性がある。
その他	●道路の狭い場所では、災害時の道路閉塞、緊急車両が通れない等の恐れがある。

③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

災害想定	課題
台風	事前対策の普及 ● 事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ● 各自の身の回りの事前の備えの周知
地震	建物の耐震性の確保 敷地の液状化対策 ● 耐震性が確保された建物の普及 ● 液状化対策の推進 建物内の安全確保 ● 建物内の安全を事前に確保
河川浸水	浸水深の軽減 ● 浸水深を低減させるハード対策の実施 床上浸水の防止・軽減 ● 水災害対策が施された建物の普及 ● 建物用地の浸水対策
ため池浸水	停電対策 ● 水災害に強い電線の地中化の推進 避難できる場所の確保 ● 命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ● 水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 災害時要配慮者の安全な避難 ● 高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立
土砂災害	新築抑制と安全な場所への移転 ● 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域への新築の抑制 ● 既存建物の安全な場所への移転促進 治山 ● 治山事業による安全性確保
大規模盛土造成地	危険度調査による安全性確認と対策 ● 第二次スクリーニング調査による安全性確認 ● 危険度の高い土地の安全対策
その他	情報取得手段の確保 ● 災害時の情報取得手段の確保 停電対策の多重化・代替性の確保 ● 災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 防災・減災教育 ● 防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知



＜地区の災害リスク＞

水災害

- ◆小櫃川（泉川・武田川）沿いで3.0m～10.0m未満の河川浸水の危険性が高くなっている。
- ◆河岸浸食及び氾濫流の危険性のある個所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。
- ◆ため池（田川貯水池上・下）があり、氾濫すると歩行困難程度の深さの水が一部の宅地内に流れ込む恐れがある。
- ◆土砂災害
- ◆地区の東側は中山間部であるため、土砂災害の危険性が高くなっている。
- ◆避難
- ◆河川浸水に対応できる指定避難場所・指定緊急避難場所の数は3カ所のみとなっている。

[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

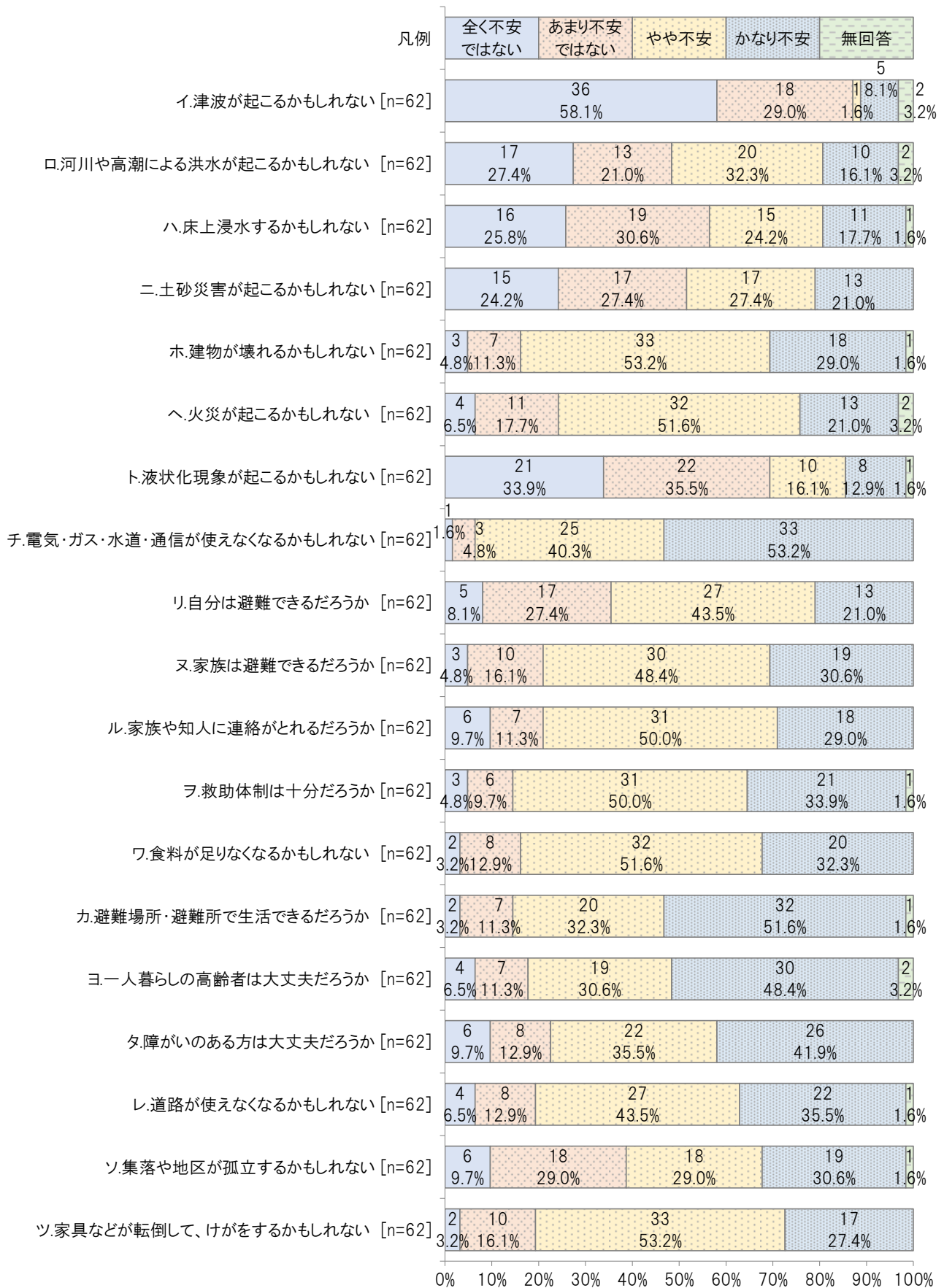
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。

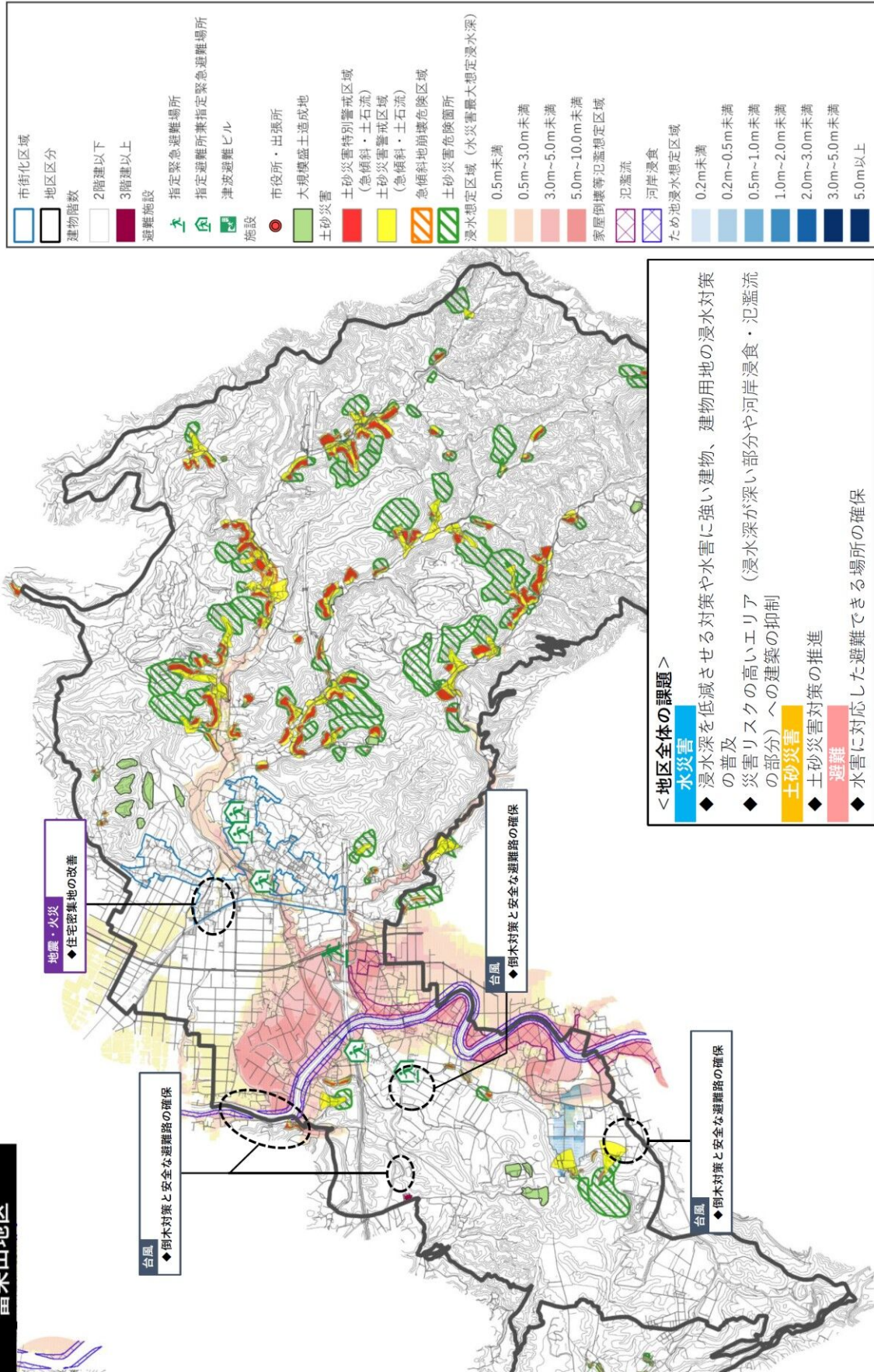
自助・共助	情報の取得・伝達	避難の経路・方法
◆風水害又は、倒木等で公助を待っているのではなく、自宅前等、自分で出来る事はやってみる。 ◆ライフラインが止まった場合、物資等を頼る前に、ある物で何かできないか。又は作れないか等、自足できないか。公助に頼り過ぎではないか不安（消防団員が少ない為）。 ◆災害が起きたときは、消防団、行政等が対応することになるが、各々のマンパワーは限界がある。普段から災害時に何が地域で何ができるか共有することが必要ではないか（例：自治会の班）。 ◆災害について、防災とは。春夏秋冬に係わる各出来事は、対応がずいぶん変わってくると思う。日頃からの防災への意識をリスクを知り、備える。高齢化とはいえ、それぞれがリーダーとして頑張れる肯定感を訓練していくこととなり、大切な人、日常からの声をかけ、人間関係をつくる。水、川、土砂等の大きな問題はやはり自覚。SDGsは事故にならないためのリソース。 ◆災害が起きた時に、自分の生活や家庭もある中で消防団の活動にどの程度まで参加しているのか考えてしまう。地域も家庭も考えると・・・でも誰かがいかなければいけないという現状は多くの人困っていると思う（消防団の人達もその家族も）。 ◆消防団にも家庭や仕事がある。 ◆自分だけが良ければ良いとならない。 ◆1人での行動（何かあったもわからない）⇒みんなが集まって動く。 ◆住民の横のつながりと消防団（市役所等）とのタタの連携。 ◆災害時、自助、共助をしていこうと思うが、高齢化が進んでいて、活動が難しい。	◆日中の災害時の他の家族と連絡が取れない場合（子：学校 親：職場 祖父母：在宅）。 ◆台風時、大雨などサイレンが聞こえにくい。聞こえない！！ ◆高齢者が多いので、独居、高齢者のみ世帯の情報を地域や遠方に住んでいる家族等連絡がとれる体制づくりが必要ではないか。 ◆連絡する仕組み構築。 ◆台風や大雨等の情報は、TV、ラジオで取っているが、市の単位とかで正しい正しい情報が取れる様にして欲しい。 ◆地域に住む方で、要救助者のリスト（高齢者、障害者等）の整備と正しい公開をして欲しい。 ◆災害直後に、災害の範囲・規模が把握できる。情報を得ることができるとかどうか。（自分の置かれている状況把握）。 ◆高齢者、自力で避難できない世帯を把握したい。（災害時の救助のために）。 ◆災害時に多くの情報があるが、どの時点で避難したら良いか判断できない。	◆風水害時の避難のタイミングと避難経路。 ◆下郡橋付近と大鐘橋付近に位置する大鐘区は、両方の川が氾濫した場合、どの様な方法で対応したらよいか？！（川にはさまれている）地域の 高台に避難するのは判っていますか？）。 ◆道が使えず孤立する。 ◆竹が倒れて通れない道が多い（風水害時）。災害時の避難ルート確認。渋滞・高速×。救急車、救急隊これならない。道1本×になるとまっとうしてしまう。 ◆逃げ道がなくなる。 ◆災害の時に道の確保をしようとする意識を地域がもっている。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆倒木等により道が使えない（車による避難ができない）。 ◆生活道路の遮断対応。
被災時の支援	ライフラインの寸断	避難場所の不足
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。
被災時の支援	被災時の支援	被災時の支援
◆高齢者や独居者を誰が援助して避難させるか。共助の体制。 ◆主要道がふさがれた時、抜け道が少ない為、避難、消防活動が不可能となる不安がある。 ◆人が少ない⇒気づくのが遅れる。 ◆人手が足りない（消防団だけでは厳しい）。 ◆災害発生時の被害報告からの支援までのスピード。 ◆高齢者の避難確保。 ◆災害が中・長期になった場合の支援が必要な人へのアプローチ方法（どの段階でどこ、誰がどうするか）。	◆過去の経験から災害発生後にライフラインが復旧する迄時間がかかる為、先が見えない不安がある。 ◆台風時の停電。地域として仕方がないのかもしれないが、とにかく回復までに他の地域と比べて時間がかかりすぎる。高齢者も多い地域なので、また大きな台風や地震が起きた時に同じことをくり返さないように対処できるか。 ◆倒木等による道路、電気の遮断及び集落の孤立。 ◆停電による不安。	◆避難をする場所及び必要性。 ◆避難所への対応。 ◆避難所の数が少ない。公民館は川が近く心配。

富来田地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]



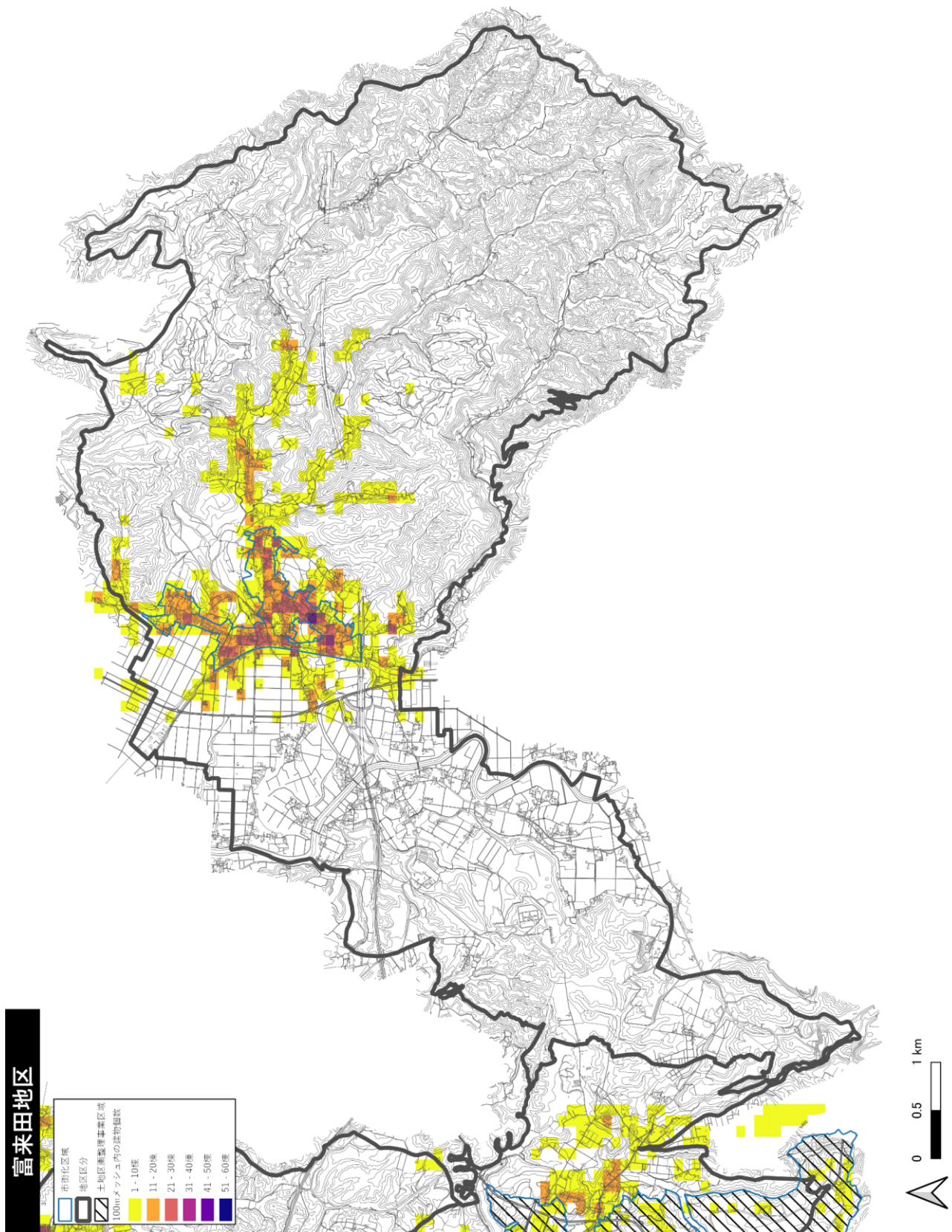
〔課題図〕



※吹き出しで整理している課題は、住民意見交換会の意見に対して指摘しているが、指摘箇所以外にも発生しうる課題として捉える。

富来田地区

[参考：建物密度分布図]



(6)西清川地区

① 地区特性

- 地区北部の低地部分は、小櫃川に面して住宅地と農地が広がっています。JR 久留里線より南側は標高が高くなり、高台に住宅地が広がっています。
- 高台の住宅地には、商業施設や学校等の都市機能が立地しています。
- 地区全体で、低層建物が広く分布しています。

② 災害リスク分析

ア. 推定被害規模と対応避難所等

	津波 浸水	高潮 浸水	河川 浸水	ため池 浸水	土砂 災害	大規模 盛土 造成地
想定災害	—	—	●	—	●	●
推定被災人口	—	—	934 人	—	151 人	7,025 人
推定被災世帯※	—	—	443 世帯	—	72 世帯	3,329 世帯
対応避難所等	6 カ所	6 カ所	3 カ所	—	6 カ所	1 カ所

※推定被災人口から、1世帯あたり人員（2.11 人／世帯：令和 4 年 4 月時点）を除算して算出
 ※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

イ. 災害リスク

災害想定	災害リスク
台風	●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。
地震	●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。
高潮浸水	●一部の農地が浸水する。
河川浸水	●小櫃川が氾濫した場合、小櫃堰公園付近の住宅地に被害の恐れがある。 ●3 階建て以上の建物なく、垂直避難が困難である。 ●小櫃川沿岸で河岸浸食の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。
内水氾濫	●浸水の危険性がある場所が指摘されている。
土砂災害	●大雨や地震時に、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域内の建物や住民が被災する恐れがある。
大規模盛土造成地	●地区内の高台エリアは、広く大規模盛土造成地であり、調査により危険度が高いと判断された造成地では、地震時に滑動崩落の可能性がある。
その他	●地区北部の低地部分と南部の高台エリアの間は、JR 久留里線の線路で分断されており、北部から南部への避難の際に、障壁となる可能性がある。

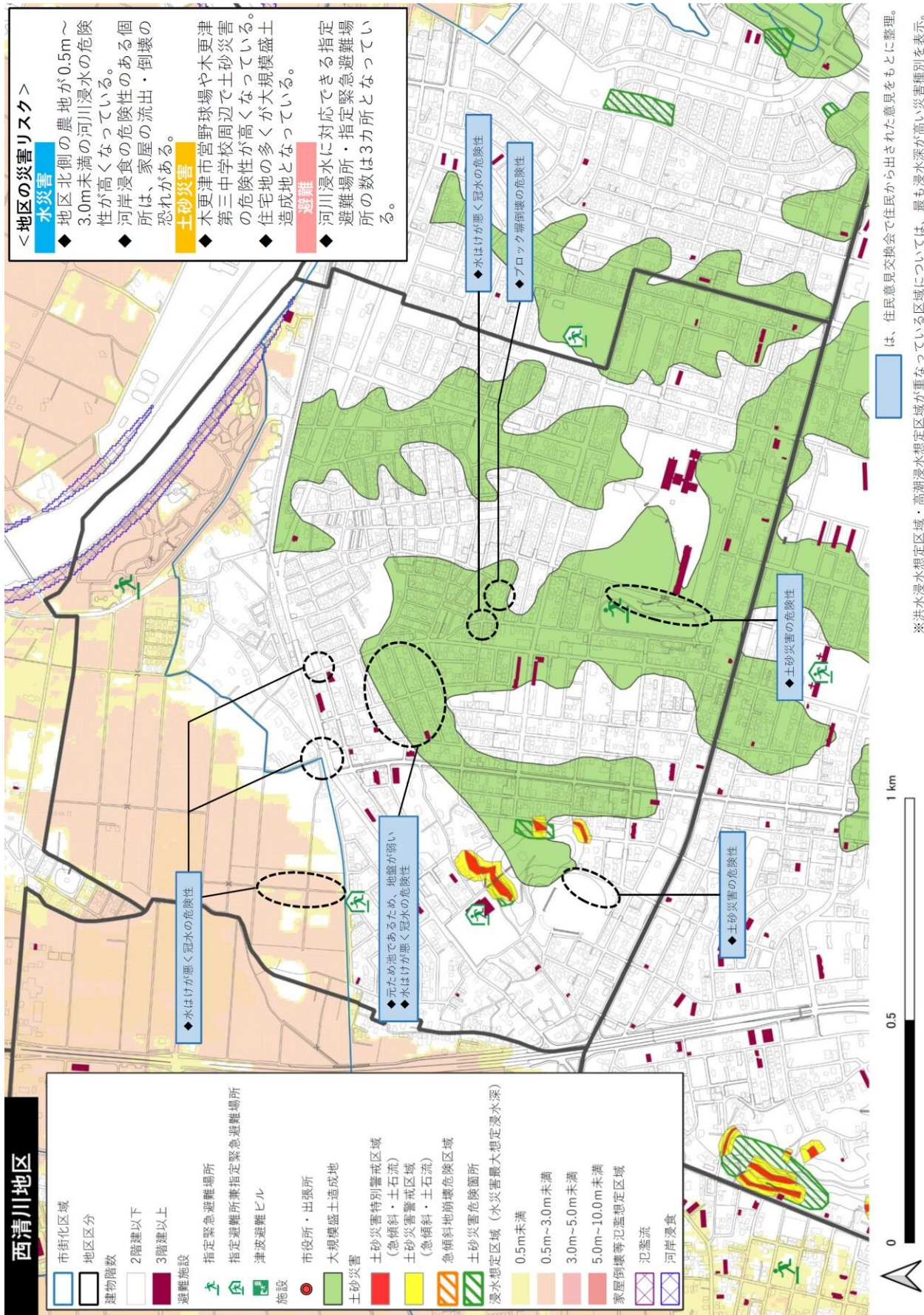
③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

災害想定	課題	
台風	事前対策の普及 ●事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ●各自の身の回りの事前の備えの周知	
地震	建物の耐震性の確保 ●耐震性が確保された建物の普及	建物内の安全確保 建物内の安全を事前に確保
河川浸水 高潮浸水 [低地部]	浸水深の軽減 ●浸水深を低減させるハード対策の実施 停電対策 ●水災害に強い電線の地中化の推進 避難できる場所の確保 ●命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ●水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 災害時要配慮者の安全な避難 ●高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立	床上浸水の防止・軽減 ●水災害対策が施された建物の普及 ●建物用地の浸水対策
内水氾濫 ・ 冠水	浸水深の軽減 ●貯留・排水設備や雨水浸透施設の充実	
土砂災害	新築抑制と安全な場所への移転 ●土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域への新築の抑制 ●既存建物の安全な場所への移転促進 治山 ●治山事業による安全性確保	
大規模盛土 造成地 [高台エリア]	危険度調査による安全性確認と対策 ●第二次スクリーニング調査による安全性確認 ●危険度の高い土地の安全対策	
火災	延焼予防対策 ●火災の発生防止や早期発見、消火体制の確保等による延焼の防止	
その他	情報取得手段の確保 ●災害時の情報取得手段の確保 停電対策の多重化・代替性の確保 ●災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 防災・減災教育 ●防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知	

西清川地区

[災害リスク分析図]



[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

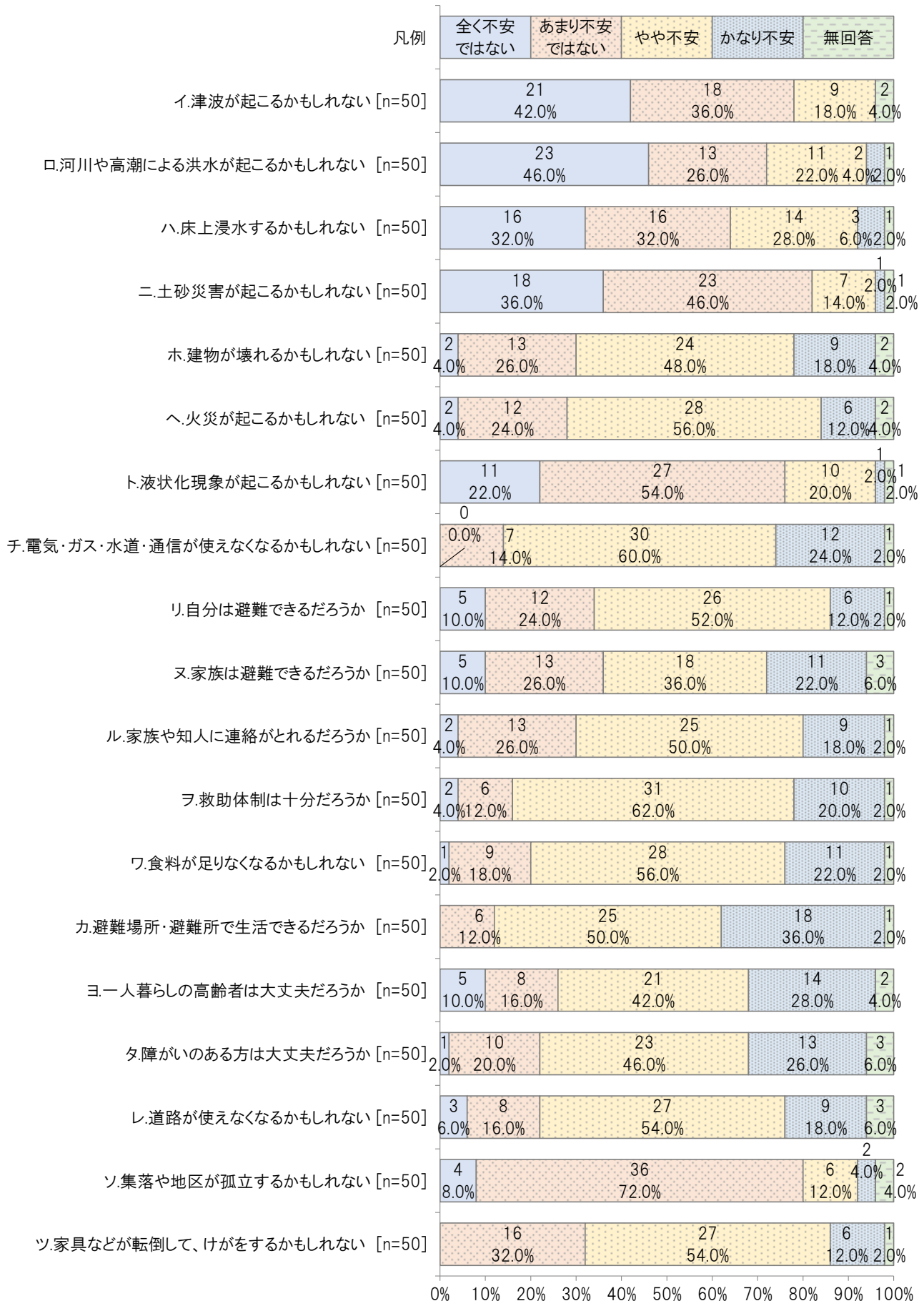
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。

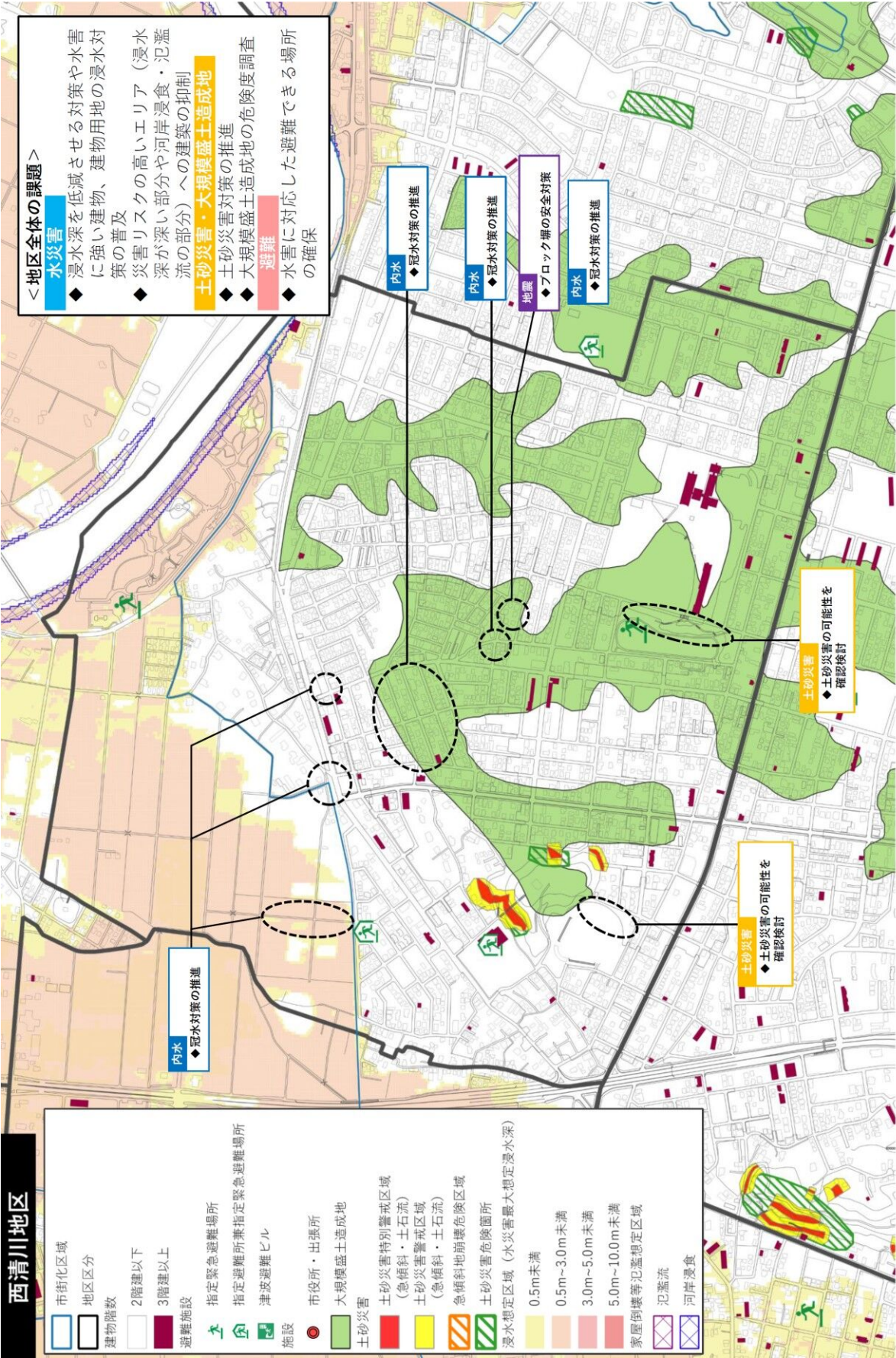
大雨による道路の冠水	避難所の運営・不足	避難の支援	避難の障害
◆大雨による道路の冠水で通行できなくなる。 ◆大雨時の道路冠水（下水道、U字溝？）。 ◆大雨時下水があふれ大変である。 ◆大雨が降った時の、水災害（道路が通れなくなる）。	◆避難所運営。 ◆災害時の避難所の住民主体の運営（比較的安地域なので、想定している人が少ない）。 ◆災害時避難所に対しての人口のわりあいが含まれないので入れない人がでくる。 ◆避難所のキャパシティ、運営方法について行政、住民の共通知識がない。	◆災害時要支援者への支援体制が不十分。 ◆災害時、高齢者の避難について。 ◆自分含めて、高齢者世帯多いので誰が災害時に救助するのか。	◆地域の中で高低差があるため徒歩での避難が大変。 ◆避難所への導線付近が危険区域となっていることが多い。
災害そのものによる被害	情報の取得・伝達	自助・共助・公助	ライフラインの寸断
◆小瀬川からの水害。地球温暖化による大雨。 ◆地震災害、比較的地盤が弱い。 ◆地震によりブロック塀がたおれケガ、通行不能。	◆地域の情報不足 1人で逃げられない老人への対応。 ◆連絡網＝情報伝達。	◆自助難しい（高齢者）、共助難しい（地域のつながりうすい）、公助に負担（ソフト面が弱い）。	◆電気、ガス、水道のインフラの確保が不安。
住民の防災意識			
◆自然災害が少ない地区なので住民の危機意識が高まらない。			

西清川地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]



[課題図]

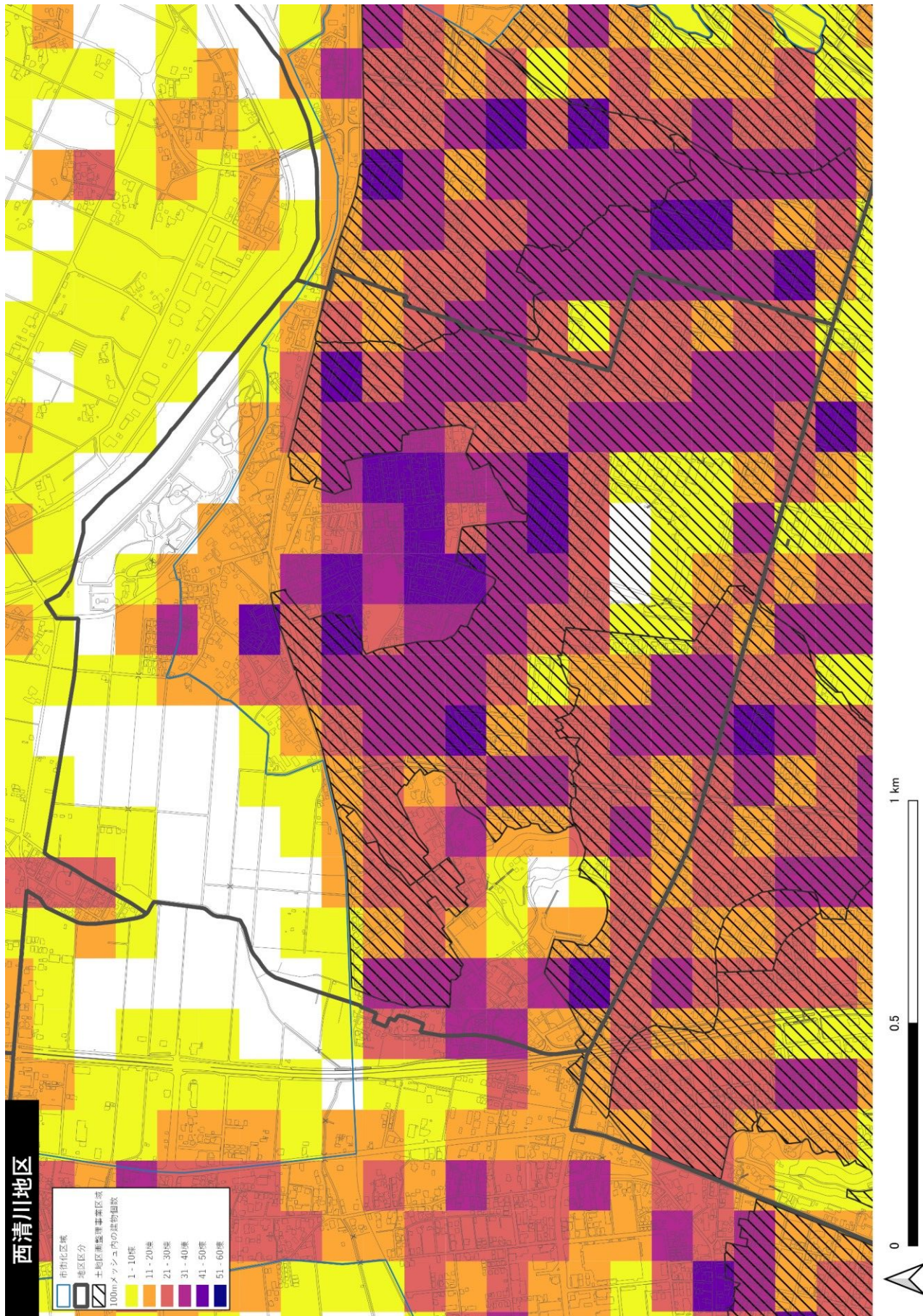


※吹き出しで整理している課題は、住民意見交換会の意見として指摘しているが、指摘箇所以外にも発生しうる課題として捉える。

※洪水浸水想定区域・高潮浸水想定区域が重なっている区域については、最も浸水深が高い災害種別を表示。

西清川地区

[参考：建物密度分布図]



(7)清見台地区

① 地区特性

- 地区南部の低地部分は、矢那川に面して住宅地が広がっています。県道 23 号から北部は標高が高くなり、高台に住宅地が広がっています。
- 県道 23 号沿道や矢那川周辺には、商業施設や飲食店、学校などが立地し、高台の住宅地には、大学や高層住宅団地等が立地しています。

② 災害リスク分析

ア. 推定被害規模と対応避難所等

	津波 浸水	高潮 浸水	河川 浸水	ため池 浸水	土砂 災害	大規模 盛土 造成地
想定災害	—	●	●	—	●	●
推定被災人口	—	想定区域内に 住宅なし	5,387 人	—	508 人	9,642 人
推定被災世帯※	—		2,553 世帯	—	241 世帯	4,570 世帯
対応避難所等	7 カ所	7 カ所	6 カ所	—	7 カ所	2 カ所

※推定被災人口から、1 世帯あたり人員（2.11 人／世帯：令和 4 年 4 月時点）を除算して算出
 ※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

イ. 災害リスク

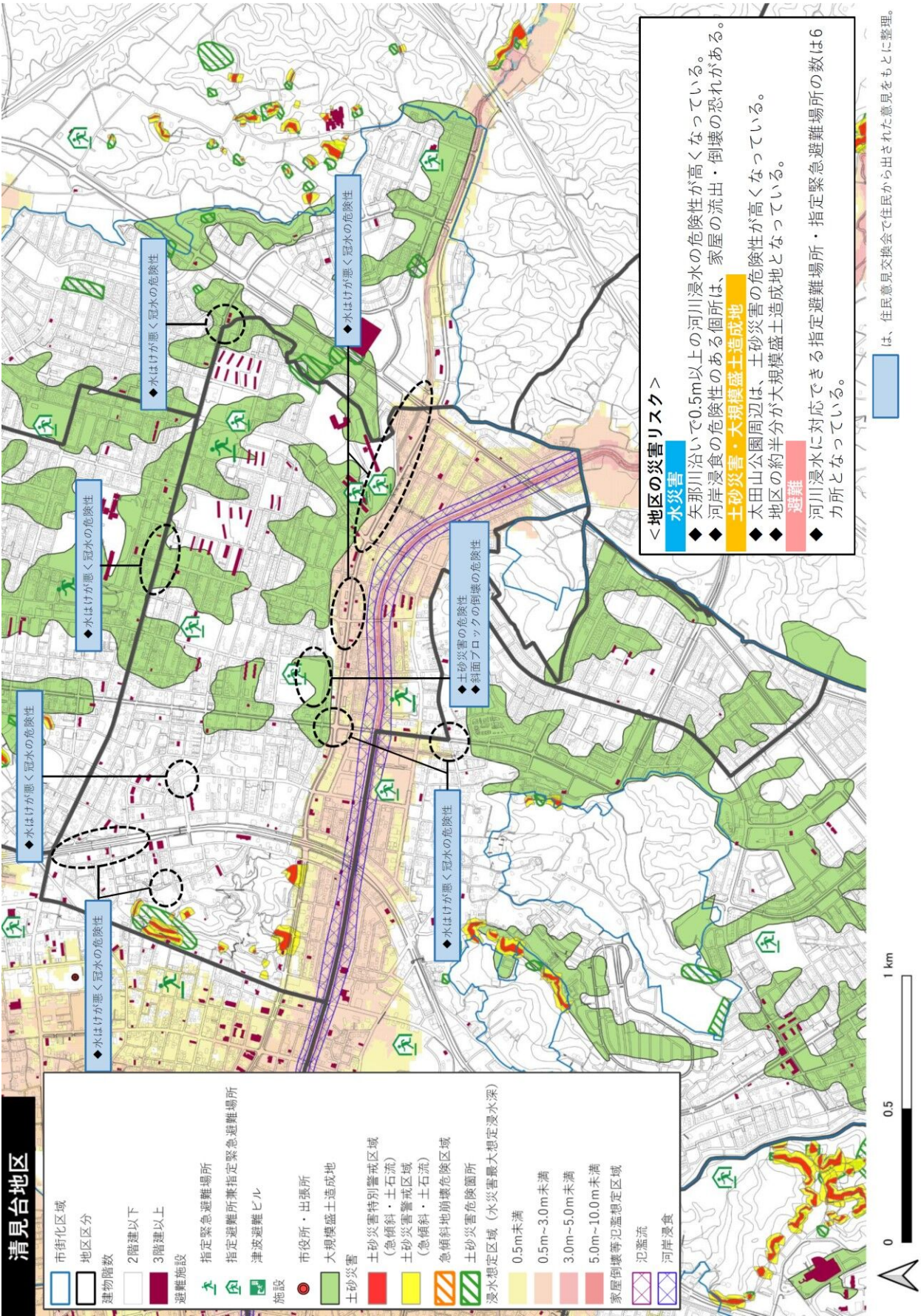
災害想定	災害リスク
台風	●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。
地震	●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。
河川浸水	●矢那川が氾濫した場合、河川周辺の住宅地に被害の恐れがある。 ●矢那川沿岸で河岸浸食の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。
内水氾濫	●浸水の危険性がある場所が指摘されている。
土砂災害	●大雨や地震時に、太田山公園の土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域内の建物や住民が被災する恐れがある。
大規模盛土造成地	●地区内の高台エリアは、広く大規模盛土造成地であり、調査により危険度が高いと判断された造成地では、地震時に滑動崩落の可能性がある。

③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

災害想定	課題	
台風	事前対策の普及 ●事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ●各自の身の回りの事前の備えの周知	
地震	建物の耐震性の確保 ●耐震性が確保された建物の普及	建物内の安全確保 建物内の安全を事前に確保
河川浸水 [低地部]	浸水深の軽減 ●浸水深を低減させるハード対策の実施 停電対策 ●水災害に強い電線の地中化の推進 避難できる場所の確保 ●命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ●水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 災害時要配慮者の安全な避難 ●高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立	床上浸水の防止・軽減 ●水災害対策が施された建物の普及 ●建物用地の浸水対策
内水氾濫 ・ 冠水	浸水深の軽減 ●貯留・排水設備や雨水浸透施設の充実	
土砂災害	新築抑制と安全な場所への移転 ●土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域への新築の抑制 ●既存建物の安全な場所への移転促進 治山 ●治山事業による安全性確保	
大規模盛土 造成地 [高台エリア]	危険度調査による安全性確認と対策 ●第二次スクリーニング調査による安全性確認 ●危険度の高い土地の安全対策	
その他	情報取得手段の確保 ●災害時の情報取得手段の確保 停電対策の多重化・代替性の確保 ●災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 防災・減災教育 ●防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知	

[災害リスク分析図]



[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

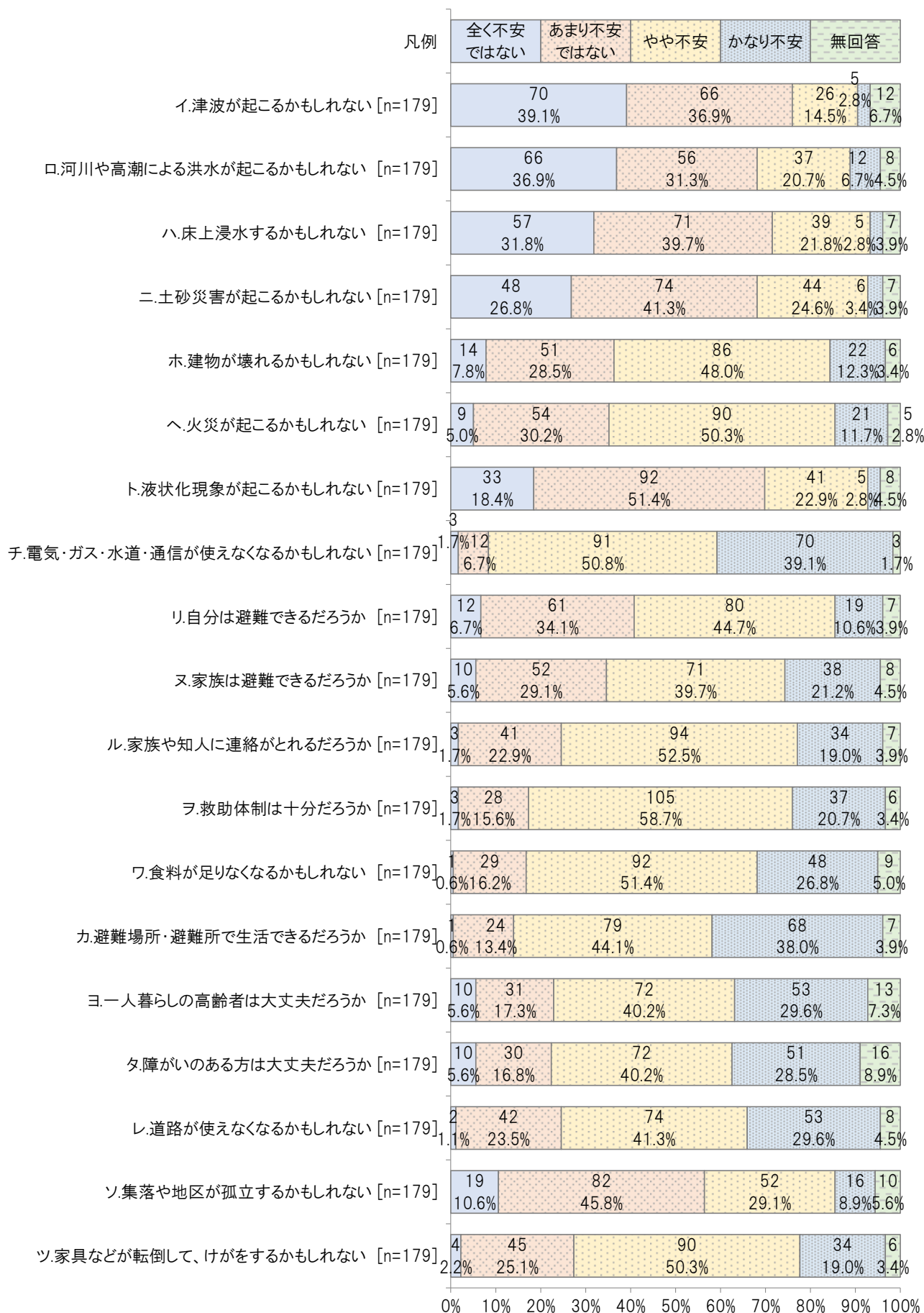
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。

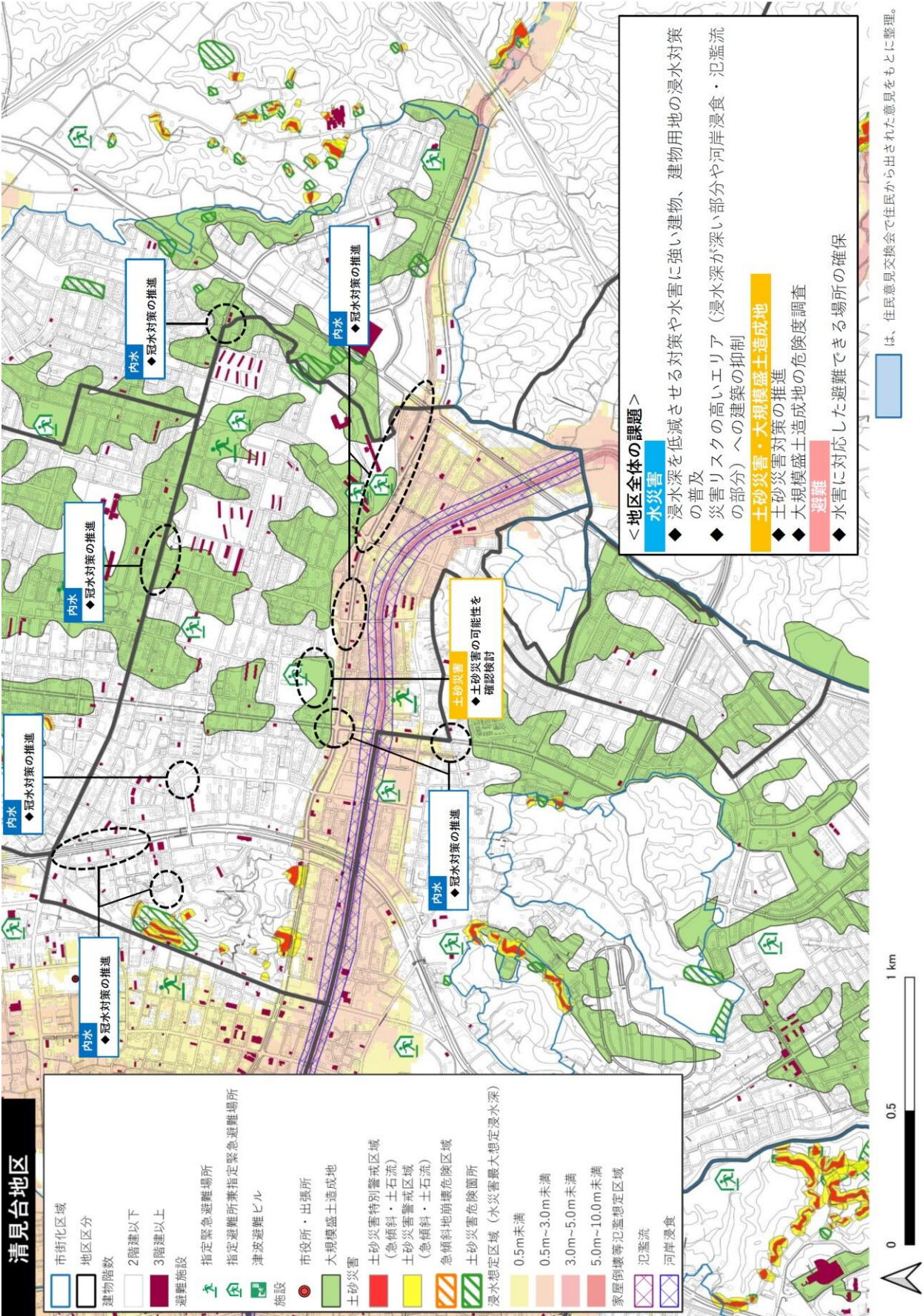
情報の取得・伝達	避難場所の運営・生活	避難行動	被災時の支援
◆ 正確な情報伝達。 ◆ 最新のハザードマップにも内水氾濫が示されておらず…理不尽な思いを持っている。 ◆ 多分、キケンがせまっている事を感知出来るか疑問…家族全員でも。 ◆ 以前、大雨の時、後ろの小ざな川がハンランしており、あと10cmで我が家が水びたしと言うのに気付かなかった。 ◆ どこにどの様な要支援者がいるか不明であり、その人を支援できない。 ◆ 日頃からひなん所、災害時対応について、何をどうしたらとわかっていない→まとめたカードのよいなものを作成し、各家庭に配布したら。 ◆ 情報（町内への連絡不可）。 ◆ 本部との連絡手段。 ◆ 通信の確保 避難場⇄対策本部。	◆ 避難場所の場所により、かなりこみあうので対応がむずかしい。 ◆ 避難所での生活。 ◆ 避難所の初期開設。 ◆ 避難場所の入れる人数が少ないのであふれてしまう人がでてしまう。 ◆ 避難所開設時うまく開設できるか。 ◆ 避難場所の扱い。考え方。全員は収容できない＝する必要はない＝できない。	◆ 当該地域は坂が多くいざ災害が発生した場合の移動が困難である（高齢者が多い）。 ◆ 仮に移動するのにも避難所が遠い所にある。 ◆ 災害時避難所が遠いので、行くのが難しい。 ◆ 予測出来ない災害（地震など）の時に避難行動に移れるか。→地区内に居るとは限らない。 ◆ 避難場所までたどりつけるか、自信がない。	被災時の支援 ◆ この地区は坂道が多く、高齢者、要介護者の避難をどうするか。 ◆ 高齢者（要支援者）。 ◆ 自身よりも地区内において要支援の方の情報が少ないので救助出来るか不安。 ◆ 高齢者の避難補助。
浸水の対策	防災用品・生活用品の備え	ライフラインの寸断	インフラの被害
◆ 本地域は矢那川、平川（排水路）に接し、囲まれている。矢那川は等しく流域住民がリスクを負うが平川排水路は本自治会町内特有の課題である。 ◆ 平成25年、28年に床上・床下浸水があり本年令和3年の7月だから大雨でも氾濫寸前となり毎年5～10月の雨季は不安、心配で一杯である。 ◆ 高台の開発に伴う“水はげ”のインフラが旧来のキャパの平川排水路については、整備されていない。 ◆ 水害が繰り返して発生しており、早めの対応をして欲しい。	防災用品・生活用品の備え ◆ 子供の避難所での生活（オムツなど）。食料（ミルクなど）。 ◆ 備蓄品の不足。 ◆ 備蓄倉庫等にある防災備品を（災害時）正確に使用できるのか。 ◆ 備蓄倉庫内にある機材が「その時、動作する」ことの準備。	ライフラインの寸断 ◆ ライフラインの問題。通信、水、トイレetc. ◆ ライフラインの確保（電気、水、通信）。	インフラの被害 ◆ インフラの破壊。 ◆ ライフラインの復旧。
		被災時の相談	耐震
		◆ 仕事場にいた方が安心だが、家族の事が心配で“パニック”になる事だろう。どうしたら良いかわからない！！ ◆ 事故発生時の相談先を明らかにする。	◆ 家の耐震対策。

清見台地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]

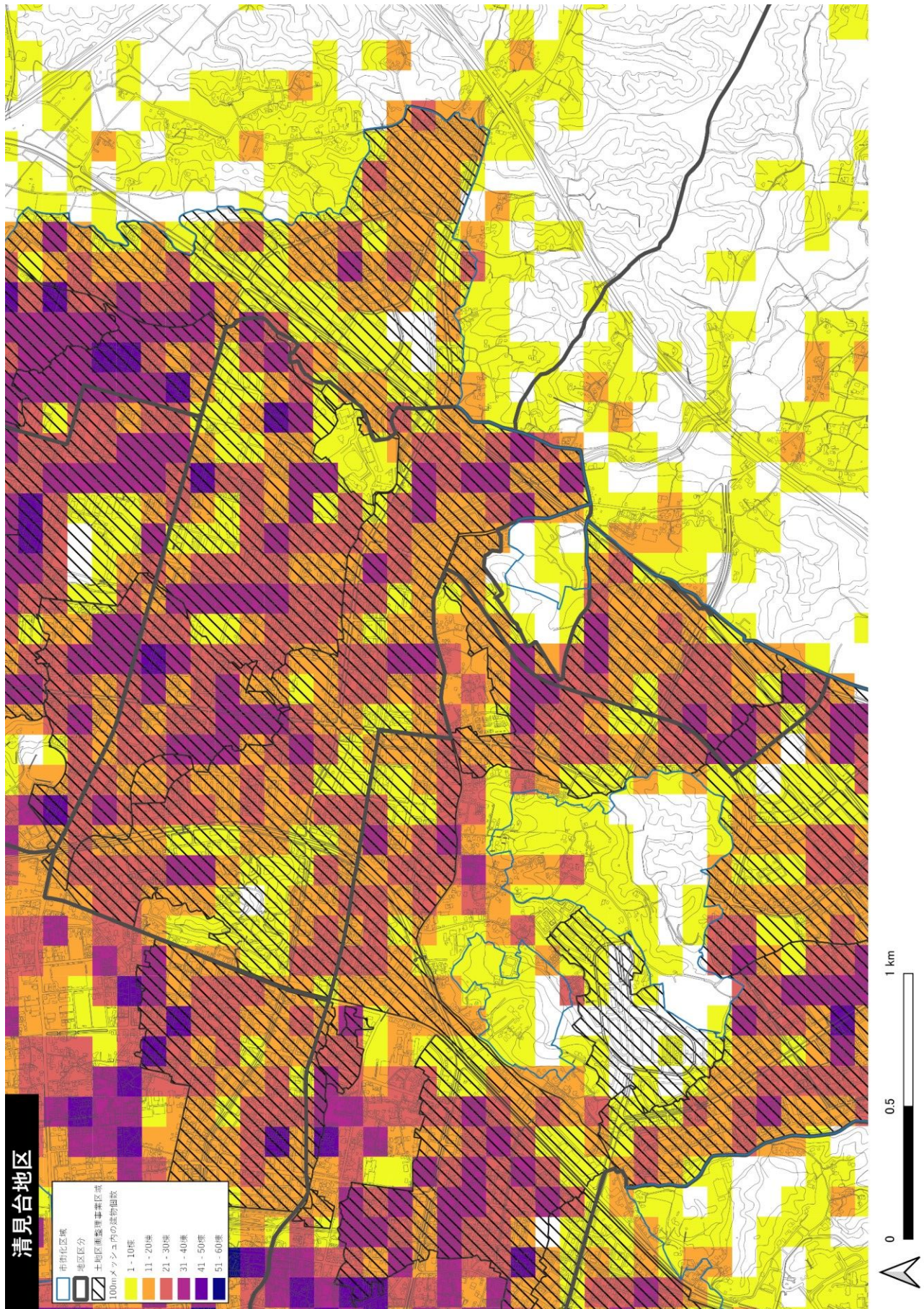


[課題図]



清見台地区

[参考：建物密度分布図]



(8)東清地区

① 地区特性

- 市街化調整区域において、地区北部の低地部分は、小櫃川に面して集落や農地が広がっており、学校も立地しています。地区南部の低地部分は、矢那川の支流沿岸に、集落や農地が広がっています。
- 市街化区域の地区西部は、高台住宅地が広がり、商業施設や飲食店、学校などが立地しています。

② 災害リスク分析

ア. 推定被害規模と対応避難所等

	津波 浸水	高潮 浸水	河川 浸水	ため池 浸水	土砂 災害	大規模 盛土 造成地
想定災害	—	—	●	●	●	●
推定被災人口	—	—	2,480 人	135 人	533 人	5,294 人
推定被災世帯※	—	—	1,175 世帯	64 世帯	252 世帯	2,509 世帯
対応避難所等	6 カ所	6 カ所	4 カ所	—	6 カ所	1 カ所

※推定被災人口から、1世帯あたり人員（2.11人／世帯：令和4年4月時点）を除算して算出
 ※地震・内水氾濫・火災・台風は、どの場所でも被害が想定できるため、上表では割愛している

イ. 災害リスク

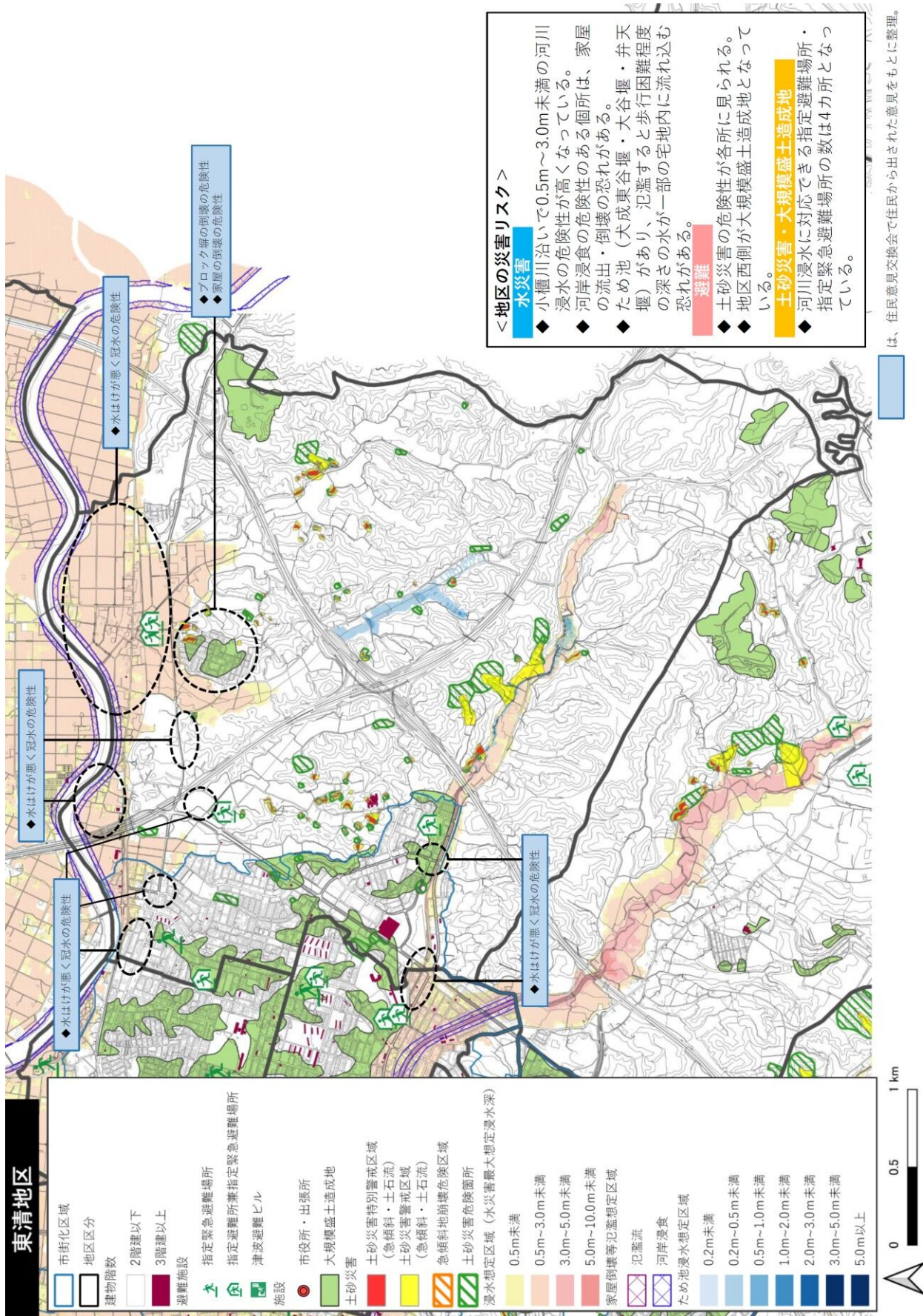
災害想定	災害リスク
台風	●強風により瓦の破損・剥離や工作物の倒壊の恐れがある。
地震	●旧耐震基準の建物や老朽化が進む建物、液状化危険度が高い場所では、建物倒壊リスクが高まる。
河川浸水	●矢那川と支流が氾濫した場合、河川周辺の住宅地に被害の恐れがある。 ●小櫃川沿岸で河岸浸食の危険性のある箇所は、家屋の流出・倒壊の恐れがある。
内水氾濫	●浸水の危険性がある場所が指摘されている。
ため池浸水	●弁天堰（ため池）があり、氾濫すると歩行困難程度の深さの水が一部の宅地内に流れ込む恐れがある。
土砂災害	●大雨や地震時に、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域内の建物や住民が被災する恐れがある。
大規模盛土造成地	●地区内の高台エリアは、広く大規模盛土造成地であり、調査により危険度が高いと判断された造成地では、地震時に滑動崩落の可能性がある。

③ 防災・減災対策の課題

災害想定状況、意見交換会結果、アンケート結果、災害リスク分析を踏まえ、課題を抽出します。

災害想定	課題				
台風	事前対策の普及 ● 事前に台風対策が施された建物・工作物の普及 ● 各自の身の回りの事前の備えの周知				
地震	<table border="0"> <tr> <td>建物の耐震性の確保</td><td>建物内の安全確保</td></tr> <tr> <td>● 耐震性が確保された建物の普及</td><td>● 建物内の安全を事前に確保</td></tr> </table>	建物の耐震性の確保	建物内の安全確保	● 耐震性が確保された建物の普及	● 建物内の安全を事前に確保
建物の耐震性の確保	建物内の安全確保				
● 耐震性が確保された建物の普及	● 建物内の安全を事前に確保				
河川浸水	浸水深の軽減 ● 浸水深を低減させるハード対策の実施 床上浸水の防止・軽減 ● 水災害対策が施された建物の普及 ● 建物用地の浸水対策				
ため池浸水	停電対策 ● 水災害に強い電線の地中化の推進 避難できる場所の確保 ● 命を守ることを最優先とした避難意識の醸成 ● 水災害から安全に避難できる場所と経路の確保 災害時要配慮者の安全な避難 ● 高齢者や障がいのある方、子どもなどの災害時要配慮者の避難方法の確立				
内水氾濫 ・ 冠水	浸水深の軽減 ● 貯留・排水設備や雨水浸透施設の充実				
土砂災害	新築抑制と安全な場所への移転 ● 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域への新築の抑制 ● 既存建物の安全な場所への移転促進 治山 ● 治山事業による安全性確保				
大規模盛土 造成地	危険度調査による安全性確認と対策 ● 第二次スクリーニング調査による安全性確認 ● 危険度の高い土地の安全対策				
その他	情報取得手段の確保 ● 災害時の情報取得手段の確保 停電対策の多重化・代替性の確保 ● 災害時の停電に対応できる発電・蓄電設備の充実 防災・減災教育 ● 防災・減災に対する正しい備えや対応方法の周知				

[災害リスク分析図]



[第1回意見交換会結果：地区住民が思う不安なこと]

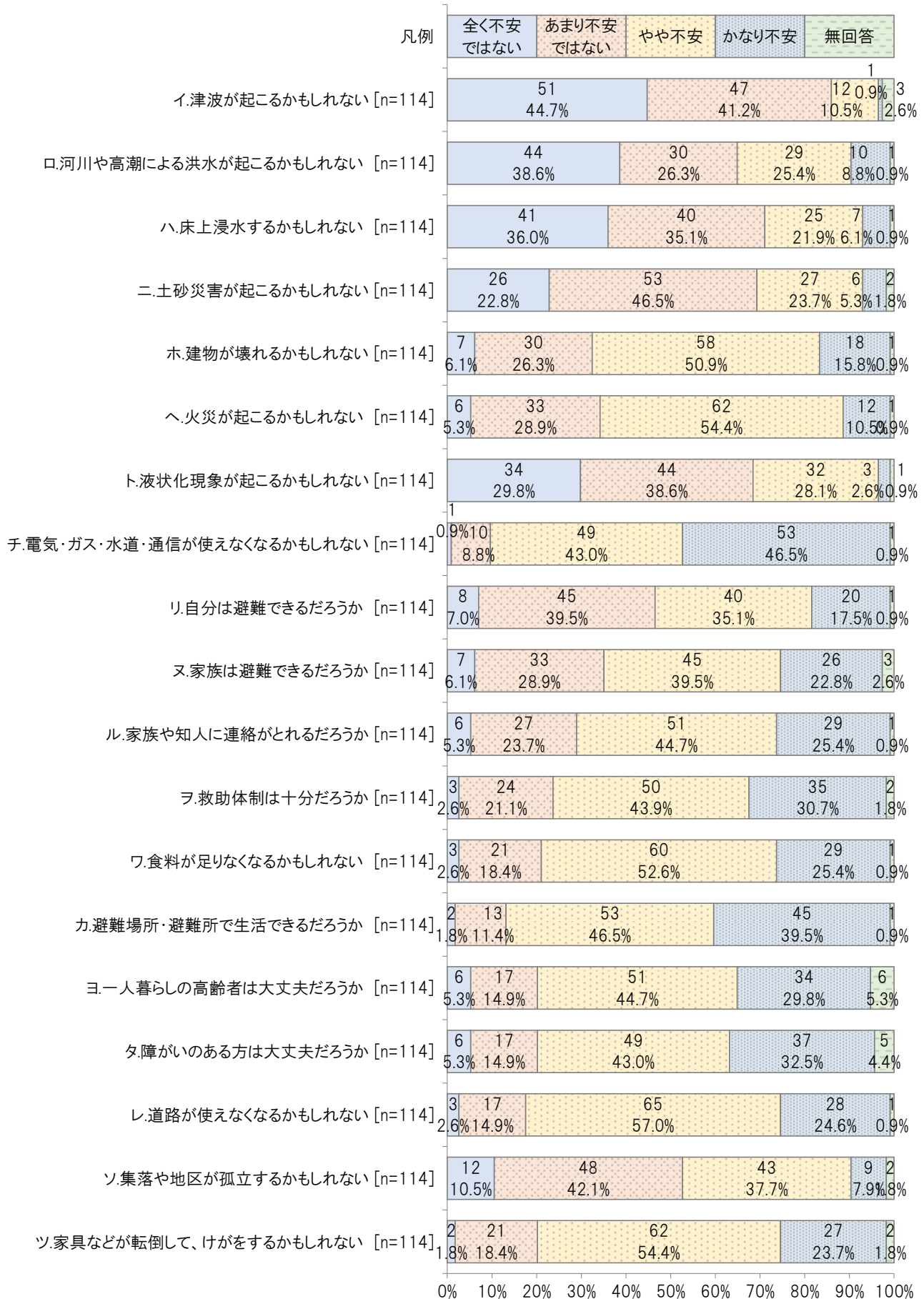
●災害時に不安なこと

◆は、第1回意見交換会で、参加者各位に記載いただいた「不安なこと」について、できるだけ記載いただいた表記のまま整理している。

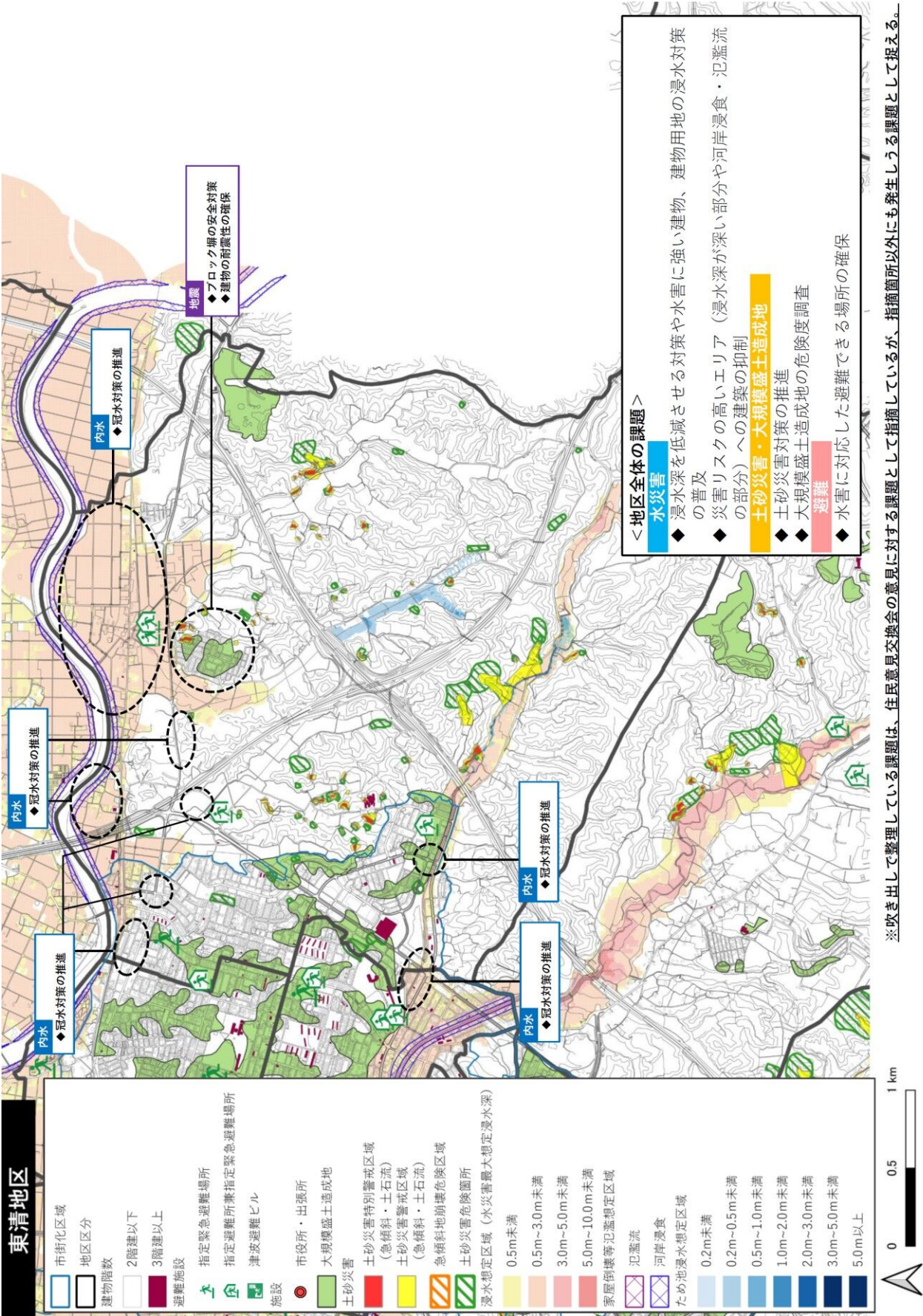
ライフラインの寸断 ◆ 電気→水道、ガス。 ◆ 水道・ガス。 ◆ 電気が使えない時。 ◆ 電気が使えなくなる事。 ◆ 通信関係。 ◆ 電気が止まる。 ◆ 安否確認が不安。 ◆ 地震、台風による停電、断水。 ◆ ライフラインの復旧。 ◆ 電気・水道の供給 どのルートできているのかわからない。 ◆ ライフライン停止時の生活不安（防災備品が少なすぎる）⇒特にトイレ、各電機。 ◆ ライフラインの停止時の生活不安。 ◆ 家との連絡。 ◆ トイレ問題。 ◆ 食事の不安。 ◆ ライフライン停止時の生活不安（①停電、②断水、③通路の使用不可、④食料の調達、⑤トイレの使用）。 ◆ 停電（インフラ×、自宅設備×） 蓄電システムの有効性多い。	避難所生活・運営 ◆ 避難所に行くことが不安 行きたくない（トイレの問題）。 ◆ 個人的に避難場所へ行く事。 ◆ 防災備品が足りない（トイレ、食事）。 ◆ 避難所の運営の円滑化（①避難所の開設、②避難所への誘導、③避難所生活への手助け）。 ◆ 備蓄品の不足（災害避難者が多数の場合、備品不足になる事がさげられない）。 ◆ 備品の不足などの改善。	避難時の混乱 ◆ 被害状況の避難体制を周知しておくべき。 ◆ 災害避難時の混乱、不安（避難場所（この地区でひとつだけ）、日頃の訓練が不十分）。 ◆ 避難時の混乱。 ◆ 高齢者が多い地域での避難時のパニックへの不安。 避難場所の確保 ◆ 東清地区全体の避難所が現施設で充分か。 ◆ 土砂災害時、ひなん場所が少ない。	被災時の移動手段 ◆ 交通渋滞（障害）による帰宅困難。 ◆ 移動手段の確保（物質等調達）（1. 車・・・ガソリン 給油さえできない場合も 2. 自転車 3. 徒歩・・・子ども小さい）。 ◆ 地震によって道路に障害物があり、通行不可になってしまったら（支援者（消防車等）が目的場所に行けない。避難所にたどり着けない。交通渋滞等道路がマヒする。救助が遅れる。 ◆ 大雨での道路が浸水したとき（移動ができない、う回路がわからない）。
--	--	--	---

東清地区

[居住地区における災害に関する危機意識について：アンケート（地区別集計）]



[課題図]



東清地区

[参考：建物密度分布図]

